


K-3: 11月9日(土) (15:00 ~ 16:30)

<p>タイトル</p>	<p>混迷の時代をいかに生き抜くか</p> <p>～霞が関改革や青山社中の起業、ハーバード・ケネディスクールでの学びを通じたリーダーシップ私論～</p>
<p>講演者</p>	<p>青山社中株式会社 筆頭代表 (CEO)、中央大学 (公共政策研究科) 客員教授</p> <p>朝比奈 一郎 (あさひな いちろう) 氏</p>
<p>講師紹介</p> 	<p>1973年、東京都生まれ。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 東京大学法学部卒業。ハーバード大行政大学院修了 (修士)。 - 経済産業省でエネルギー政策、インフラ輸出政策などを担当。 - アジア等の新興国へのインフラ・システム輸出では省内で中心的役割を果たす。 - 小泉内閣では内閣官房に出向。特殊法人・独立行政法人改革に携わる。 <p>外務省「世界の中の日本: 30人委員会」委員。(2006年)</p> <p>プロジェクトK (新しい霞ヶ関を創る若手の会) 初代表。</p> <p>主な著書に「やり過ぎる力」(ディスカヴァー・トゥエンティワン・単著)、 「霞ヶ関構造改革・プロジェクトK」(東洋経済新報社・共著)、「霞ヶ関維新」(英治出版・共著)、「ハーバード・ケネディスクールでは何をどう教えているか」(同・共著)など。</p>
<p>概要</p>	<p>政権交代後、「アベノミクス」により景気の持ち直しが見られる分野も散見されますが、構造的には日本が復活しているとはまだまだ言い難い状況です。財政危機、少子高齢化、貧富の格差の拡大など、根本的な課題に対して、抜本的で有効な対策が取られているとは言えず、我が国は、「失われた10年(90年代)」、「失われた20年(90年代+2000年代)」を経て、「失われた30年」に突入しようとしているかのようです。TPPや領土を巡る争いなどの海外からの数々の圧力や、未曾有の震災の影響などもあり、ますます混迷の度を深めているとも言えます。</p> <p>こうした状況下、我々は、一体、この「混迷の時代」をどのように生き抜けばいいのでしょうか。</p> <p>本講演では、経済産業省の職員として、エネルギー案件・インフラ案件で世界の列強と伍して争奪戦に対応してきた経験を持つ演者から、混迷の時代を生き抜くためのリーダーシップ論について語っていただきます。山積する問題に対して有効な手が打てていない行政の中枢にあって、若い同士たちの先頭に立って「新しい霞ヶ関を創る若手の会(NPO法人プロジェクトK)」を結成し具体的な改革を策定・実現させた経験に基づく、「やり過ぎる力」の論は必聴です。また、演者ご自身はいわゆる「リーダータイプ」ではないとのことですが、リーダーが生まれ・育つプロセス、志あれば誰もがリーダー足りうることを、ハーバード・ケネディスクールで学んだ理論なども援用しながらご説明いただきます。</p> <p>さらには、官僚にありがちな「次のステップとしての政治家」を目指すのではなく、日本の人材・政策・組織を作り直すことで日本の活性化を目指す組織(=青山社中)を立ち上げた想い、狙い、そして、起業してから約3年間の歩みなどについてもお話しいたします。</p>